

新年明けましておめでとうございます。

昨年10月の任期満了によります町長選挙におきまして、引き続き町政に当たらせていただくことになりました。心から感謝を申し上げます。行政は一つ一つの結果の積み重ねであり、「行政は日常にあり」を信念としております。財政を再建し、健全化することを継続して、子どもや孫の世代に借金の負担をできる限り残さないように責任をもって、まちづくりに取り組みます。東京法令出版の「選ばれる自治体の条件」では巻頭に、住民は自分の選好を満足させてくれる自治体に住むことを望み、満たしてくれない自治体からは離れていく。このような行動を起こすことで住民は自らの意思表示を明確にする。とあります。財政再建の継続と、福祉、医療、教育、基盤整備、雇用創出、安全安心、防災減災等に取り組み、町民の皆さま一人ひとりが「住んで良かった」「住み続けて良かった」と思える町に、そして町の隅々まで「やすらぎ」と「潤い」を感じずる町、来町された方々から「おもてなしの心」を感じていただける町でありたいと思っております。

いのちと暮らしを守る防災減災では、芦川の護岸整備は昨年、整備計画が示されましたが、事業期間は平成25年度から平成36年度までの12年間で笛吹川合流域からJR身延線鉄橋までの1,300メートルを改修（両岸とも）します。事業費は20億円で費用は国と県です。この事業完成後はさらに上流の川浦橋までの1,000メートルを改修する計画です。高田大正田の高田排水機場は昭和42年に県営の湛水防除事業として整備されてから46年が経過し、老朽化により排水能力が著しく低下しています。国・県の補助により全面的な改修の見通しがたちました。道路など交通アクセスでは、中部横断自動車道は平成30年3月末の開通、仮称六郷インターへのアクセス道路の整備を継続、黒沢バイパスは平成26年度末に完成、町道矢作上野線（三珠陸橋）の継続、新規。中山間地域総合整備事業では、三珠地区、六郷地区が主で総事業費は28億円（負担割合は国50%、県35%、町15%）で、平成26年度から32年度までの7年間で事業実施の予定であります。

町政への姿勢は、子どもたちの未来に責任を持つ町政でありたいと常に心掛けております。今後とも町政に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

皆さまのご多幸をお祈り申し上げまして、新年のあいさつといたします。

平成26年1月1日 市川三郷町長 久保 真一